

令和2年度 岩手県教育研究発表会

**知的障害特別支援学校における  
カリキュラム・マネジメントの要領開発  
一 個別の指導計画に着目して**

岩手大学大学院教育学研究科  
特別支援教育力開発プログラム  
佐々木尚子

**I.はじめに カリキュラム・マネジメントの必要性**

平成29年, 30年, 31年告示の小, 中, 高, 特別支援学校学習指導要領において  
**カリキュラム・マネジメント確立の重要性を指摘**

【背景】  
複雑で予測困難な社会  
変化の激しい時代

すべての子ども達に生き抜くための  
資質・能力が必要

学習指導要領では

- ◆ 「生きる力」を確実に育成  
育成を目指す資質・能力の3つの柱
- ◆ 社会に開かれた教育課程
- ◆ 主体的・対話的で深い学び
- ◆ **カリキュラム・マネジメント**

**I.はじめに カリキュラム・マネジメントとは**

教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと  
(特別支援学校学習指導要領第1章総則第2節の4)

カリキュラムは教育計画の実施段階である授業や子どもが実際に学んだことまでを含む概念。カリキュラムが適切に実施され、子どもに育成したい学力についているかを検証するマネジメントが必要。  
田村 (2014)

**I.はじめに カリキュラム・マネジメントと個別の指導計画**

**特別支援学校のカリキュラム・マネジメントの4側面**

- ① 教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ② 教育課程を編成し, 実施し, 評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確保
- ③ 人的, 物的な体制確保
- ④ **個別の指導計画**の評価と改善を, 教育課程の評価と改善につなげていくように工夫すること

(特別支援学校学習指導要領第1章総則第2節の4)

**I.はじめに 先行研究**

知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの独自性 (武富2018)

カリキュラム・マネジメントを実施する際の7留意点を指摘

→ 多種多様な教育課程編成の工夫や配慮が必要

- ① 知的障害特別支援学校の各教科
- ② 自立活動の設置
- ③ 各教科等を合わせた指導
- ④ **個別の教育支援計画, 個別の指導計画**
- ⑤ 各教科の内容が段階表示
- ⑥ 各教科の指導内容を具体的に決定
- ⑦ **学部を超えたカリキュラム・マネジメント**

**I.はじめに 個別の指導計画について**

個別の指導計画とは  
児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して, 指導目標, 指導内容・方法等を盛り込んだもの (学習指導要領より)

教育的ニーズに対応した支援の個別化, 最適化

特別支援学校においては, 平成20, 21年改訂学習指導要領によって, 作成が義務化

個別の指導計画は, 年度当初に作成され, 通知表も兼ねていることが多い。取り上げた目標を単元や授業において具体化し, 活用するものとする。

**I.はじめに 目的**

丹野・武富 (2018) によると, 個別の指導におけるカリキュラム・マネジメントの授業実践例は見られたが, 課題改善が主であり, カリキュラム・マネジメントとしての具体的な手続きは不明

- 授業づくりにおいて, 個別の指導計画を活用することにより
- 児童生徒一人一人の学習状況, 学習評価を行い,
- 授業改善やひいては授業を支える教育課程の改善へつなぐ仕組みを明らかにできるのではないかと

知的障害特別支援学校における個別の指導計画に着目し, 授業づくりを通して, カリキュラム・マネジメントの内容と手続きを「要領」として提案することを目的とする

**II 方法**

**1 対象**

- (1) 対象校 岩手大学教育学部附属特別支援学校
- (2) 対象授業 高等部作業学習 手織班
- (3) 対象生徒 Aさん (男子, 2学年, IQ15, SQ25, 自閉症)

**2 調査方法及び内容**

- (1) 方法: アクションリサーチ
- (2) 期間: 20XX年8月24日~20XX年9月29日 (13日間)
- (3) 内容: 授業担当者とともに事前事後ミーティングを行い, 授業実践, 授業改善に参加する。Aさんの個別の指導計画を基に指導, 学習評価を行い教科等横断的な視点でのカリキュラムの改善を検討し, そのプロセスからカリキュラム・マネジメントの要領を抽出した。その際, 田淵ら (2019) が開発した単元構想シートを用いた。

### Ⅲ 結果と考察

#### 授業づくりの計画 (P) 段階

**作業学習は各教科等を合わせた指導**

↓

**育成を目指す資質・能力は学部目標と捉えることができた。**

- 自分の仕事や活動にやりがいを持ち、意欲的に活動する生徒
- 精一杯作業に取り組み、働く喜び、成就感、達成感をもつ生徒

### Ⅲ 結果と考察

計画の作成手順

作業学習の年間指導計画 T1会議

↓

作業班の年間指導計画 作業班での協議

↓

単元の計画 単元構想シート作成

単元構想シート (田淵・佐々木・東 2019)<sup>10</sup>

### Ⅲ 結果と考察

#### 単元における個別の指導計画の作成

Aさんのアセスメントに基づいて、目標および学習活動が計画された

単元に含まれるAさんの各教科等の内容が授業者により検討され、確認された

Aさんのアセスメントを基に支援の手だてが協議された

単元の個別の指導計画シート (田淵、佐々木、東他2019)

### Ⅲ 結果と考察

#### 授業づくりの実践 (D) 段階

①主体的・対話的な学びの実現

- 生徒との話し合いによる製品決定により、生徒の自発性や意欲が引き出された。
- 生徒のアセスメントと希望に基づいて作業担当を決め、協働的作業を展開した。

②毎回の授業評価

授業改善

授業評価

授業計画

単元計画

授業実践

授業評価

成果

課題

個人ファイル

自己評価

他者評価

絶えず微修正が行われている

### Ⅲ 結果と考察

#### 授業づくりの評価 (C) ・改善 (A) 段階

**総括的な評価**

単元における個別の指導計画に評価を記入

- 作業学習に内包されている各教科等および内容は、作業学習を遂行するための手段や方法が主である。

↓

**観点別評価**

3観点で分析的に評価

- 作業学習に内包されている各教科等および内容は、作業学習で完遂されるわけではないこと

↓

**内包されていた各教科の評価**

- 作業学習に内包されている各教科等および内容に粗密がある

**教科別指導との往還的な関連付け必要**

### Ⅳ まとめと今後の課題

#### 個別の指導計画に着目したカリキュラム・マネジメントの要領

- ① 学校における育成を目指す資質・能力を明確化する。
- ② 個別の指導計画をツールとし、授業改善を行う。
- ③ 個別の指導計画に基づく評価を蓄積し、単元の改善、目標、内容、時数、時期等の妥当性を評価する。
- ④ 単元構想シートを用いて明確化された各教科等の内容を評価し、教科等横断的な学習の様子を明らかにする。

### Ⅳ まとめと今後の課題

- ⑤ 各教科等を合わせた指導と教科別の指導における学習の関連性をはかる。
- ⑥ 各教科等を合わせた指導と各教科等で学ぶ内容を明確にし、教育課程に位置づける。

**【課題】**

当該の授業を単元における個別の指導計画を基に実践、評価し、教科等横断的な視点で検討したにすぎず、この要領の検証が必要である。

### 参考文献

国立特別支援教育総合研究所編著 (2018) 育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程の編成。ジヤース教育出版、185-190。

田淵健・佐々木全・東信之・阿部木樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司・上深龍也・最上一郎・名古屋恒彦 (2019) 育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領の開路—特別支援学校の小学部におけるアクション・リサーチから—。若手大学教育学部教育実践研究論文集、7.135-140。

武富博文 (2018) 特別支援教育におけるカリキュラム・マネジメント。特別支援教育研究、726、2-5。

田村知子 (2014) カリキュラムマネジメント—学向上的アクションプラン—。日本標準ブックレットNo.13。

丹野哲也・武富博文 (2018) 知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント。東洋館出版。

矢守克也 (2010) アクションリサーチ—実践する人間学—。新曜社。